

「テクノロジー×映画×アート」が織りなす新しいエンターテインメントの世界！

映画館で楽しむ能楽・歌舞伎・時代劇
映画「旗本退屈男」と幻の衣裳展

～時代劇の全盛期にタイムスリップ～

映画『旗本退屈男』と幻の衣裳展を、丸の内TOEI②、日動画廊、銀座柳画廊にて開催いたします。本企画は文化庁が推進する「日本博」の関連事業として、劇場、映画館、ギャラリーなど世界的に稀に見る芸術集積地である銀座の魅力を、日本や外国の皆さまに楽しんでいただけるような新たな取り組みにて紹介するものです。

東映時代劇の名作、映画「旗本退屈男」がスクリーンで復活上映。また主演の市川右太衛門が身に付けた豪華着物と画廊選定による作品との展示を行い、まさに時代を超えたコラボレーションを実現します。なお上映や展示では、昨今高まるインバウンド需要に応えるために最新の多言語システムを使用しています。エンターテインメントにおける新たな体験の場となる本企画にどうぞご期待ください。

▶映画「旗本退屈男」上映

昭和の名作、痛快娯楽時代劇「旗本退屈男」が3カ国語字幕で現代に甦ります。主演の市川右太衛門の映画出演300本目を記念して1958年に製作された本作はシリーズ全作品の中でもオールスターが一堂に会した夢の共演作です。

(物語)

早乙女主水之介(さおとめもんのすけ)、徳川將軍直参の旗本、無役ながら1200石の禄高、剣術の達人で無敵軍学。しかし太平の世にあっては自慢の技を振るう機会に恵まれず、「退屈で仕方ない」が口癖。そこに起こった伊達家のお家騒動。颯爽と仙台に乗り込んだ早乙女主水之介が、おなじみ諸羽流青眼崩しに、新剣法・諸羽流比翼の構えの二刀流を振るって、天下の悪を裁く、痛快娯楽時代劇！

監督：松田定次

出演：市川右太衛門・片岡千恵蔵・中村錦之助・大友柳太朗・大川橋蔵・東千代之介・里見浩太郎・北大路欣也ほか

製作・配給：東映1958年8月公開(本編108分)

会場：丸の内TOEI②(東京都中央区銀座3-2-17)

日時：10月3日(木)15時～17時(開場14時45分)

10月4日(金)～8日(火)10時～12時(開場9時45分)

料金：1,000円(税込)

前売販売(8月31日(土)開始)：TKTS多言語対応・カンフェティ、ローチケ・ローソンチケット、イープラス

劇場販売：丸の内TOEI(各上映の2日前より)

※本上映はスマートフォン(携帯端末)を活用した字幕システムを劇場内で使用します。(日本語・英語・中国語(簡体字))



【Evixar多言語字幕システムについて】

本上映では、エヴィクサー株式会社が開発した多言語字幕システムを使用しています。自身の携帯端末で事前に右記のQRコードにアクセスのうえ専用アプリをダウンロードすることで、劇場において携帯端末に表示される字幕を見ながら鑑賞することができます。

同システムは、独自の音響通信ソリューション“Another Track”といい、「暗号化したデータを埋め込んだ特殊な音(透かし音)」やデータベース上に保存されている音の「特徴点」をスマートフォンやスマートグラスなどのデバイスが自動認識することで、デバイスをリアルタイムにコントロールします。この技術を用いた当該サービスでは、人数の制限なく、またタイムラグもなく字幕を表示することが可能となっています。



▶「旗本退屈男」衣裳展

映画「旗本退屈男」シリーズで、俳優・市川右太衛門演じる早乙女水之介が身に付けた豪華着物が、京都・太秦の東映京都撮影所で発見されました。時代劇の衣裳は仕立て直して別の作品に転用されることが多く、残されていることは稀で、まさに「幻の衣裳」です。本展示では衣裳の展示とともに、2画廊による作品展示のコラボレーションをお届けします。

会場：日動画廊（東京都中央区銀座5-3-16）

銀座柳画廊（東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル3F）

開催期間：10月3日～10月8日

開場時間：平日10～19時 土日11～18時

※10月3日は15時～19時／6日は日動画廊休廊／最終日8日は17時終了

入場料：無料



●日動画廊

映画「旗本退屈男」衣裳と絵画の数々を展示。

あわせて「日動画廊&東映：銀座の歴史」を紹介します。

●銀座柳画廊

画家・広田稔の作品と映画「旗本退屈男」の衣裳を展示します。

▶☆特別企画「ライブパフォーマンス」～広田稔によるクロッキー：旗本退屈男を描く～

場所：銀座柳画廊

開催日：10月6日（日）／13時、14時、15時の3回実施（1回30名限定）

【広田稔（ひろたみのる）】

1959年広島県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。白日会常任委員。芸大同期生との共同アトリエ「ATELIER21」（横浜）を主催。近年に於いては美術館や画廊での作品発表だけでなく、音楽家やダンサー、詩人などのコラボレーションを通じ、絵画の本質を問い直す活動を行う。デッサンや線描の可能性を追求し、目の前の人物そのものの存在感を画面に写し取る写実絵画を目指している。



▶※両会場には多言語翻訳システム「QR Translator」を設置しています。（日本語・英語・中国語（簡体字）に対応）

【QR Translatorについて】

株式会社PIJINが開発した多言語翻訳システム「QR Translator」は、看板や印刷物を簡単に多言語化できる世界で初めてのソリューションです。サイト上から発行されるQRコードでパネルやキャプションの解説等（日本語）に印刷し設置します。ユーザー自身の携帯端末でコードを読み取ると、ユーザー端末の言語設定を認識して翻訳文を表示します。現在39言語から最大15言語のコンテンツを表示可能です。



QR Translator.



▶※本イベントの詳しい情報はこちらまで

TOKYO ART & LIVE CITY公式サイト→ <https://www.artandlive.net/projects/autumn2019>

イベント専用SNS→ Instagram: @MarunouchiTOEI_Event / Facebook: @MarunouchiTOEI.Event

※本リリースに関するお問い合わせ

J・Grip: 大石 03-5459-6068 oishi@jgrip.co.jp
東映: 飯田 03-3535-7969 yuu_iida@toei.co.jp
日動画廊: 水口 03-3571-2553 mizuguchi@nichido-garo.co.jp
銀座柳画廊: 野呂洋子 03-3573-7075 noro01@f7.dion.ne.jp
東京アート&ライブシティ構想実行委員会（芸団協内）:
山岸 03-5909-3068 tal@geidankyo.or.jp